

## 令和7年度 第3回東京都サービス管理責任者等研修検討会 議事録【要旨】

日 時 令和7年11月11日（火曜日）午前9時45分から午前11時45分まで  
 開催場所 東京都心身障害者福祉センター12階研修室  
 出席者 妹尾委員長、会田副委員長、岡田副委員長、宮田副委員長、小出委員、相良委員、清水委員、丹澤委員、徳嵩委員、徳武委員、樋口委員、皆川委員、横山委員、吉田委員、渡辺委員  
 事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長 和田 他4名  
 公益財団法人総合健康推進財団職員 4名

### 1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料確認 次第 資料1 令和7年度サービス管理責任者等指導者養成研修会（国研修）受講報告 資料2 横断的な課題シート 参考資料1 東京都のサービス提供事業所において障害児者の豊かな生活の実現に向けて取り組む職場のリーダーの姿 Ver. 5</li> <li>・研修の委託先の公益財団法人健康推進財団の方と、本研修検討会を所管している東京都職員が参加している。</li> <li>・記録のため速記者が参加と録音させていただく。また、今回の検討会の会議録及び資料は公開するものとされるが、出席委員の意見により公開、非公開を決めることができる。</li> </ul>
-----	--

### 2 報告事項

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず健康推進財団及び事務局より現在の研修実施状況について報告をお願いする。</li> </ul>
総合健康推進財団	<p><b>【基礎研修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回基礎研修については1,392名を受講決定し、10月9日までの全16日程で研修を実施した。12月上旬頃に修了証書を発送予定。</li> <li>・第2回については受講決定者823名、動画配信は10月28日から11月5日まで実施した。ファシリテーター説明会を10月31日に実施し、演習9日程は11月12日から12月25日までの全10日程で実施する予定。</li> </ul> <p><b>【更新研修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講決定者は995名で、全日程が終了し、昨日振り返り会を実施した。</li> </ul> <p><b>【実践研修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集期間を10月28日まで延長し、定員1,400名に対し申込1,156名であった。講義動画配信は12月18日から22日、演習は1月13日のA日程から2月27日まで全14日程で実施予定。</li> </ul> <p><b>【専門コース別研修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定員400名で、11月14日から2週間募集する。</li> <li>・動画撮影は11月14日と17日の2日間で行い、配信は2月16日から</li> </ul>

	3日間で実施する。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京都が直接実施する演習指導者養成研修の実施状況について報告する。10月10日に第1回研修の最終日を実施し、24名が修了の見込み。</li> <li>第2回研修は10月20日に1日目を実施したところ。この後17名が第2回基礎研修でファシリテーターを担う予定。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここまでで、ご質問等確認したい点がある方、挙手をお願いします。</li> </ul>
各委員	(挙手なし)
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>それでは次に進む。本日は、国が主催するサービス管理責任者等指導者養成研修に参加した委員より報告をいただく。資料に沿い、基礎・実践・更新・自治体コースの順で、一人約2分でポイントを報告していただきたい。まず基礎からお願いします。</li> </ul>
徳嵩委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回初めての参加であったが、基礎研修の企画立案のポイントとして、やはり個別支援計画の原案作成が大目標であることは変わらないとのことだった。</li> <li>就労選択支援や意思決定支援をどの程度盛り込むか、OJTの部分、ファシリテーターの質や確保が課題としてあげられていた。</li> <li>国研修は9月に行われるので、反映が次年度となり少し時差が出てしまう点も課題と感じた。</li> <li>標準テキストが今後販売されるとのこと、どのような内容になるかわからないが、全国的な標準化が進む可能性があると感じた。</li> </ul>
小出委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践研修のプログラムは何年も変わっていないとのこと。</li> <li>基本的には、本人主体のサービス実践ができる人材を育てるということ、そのためのサービスの質の向上、サビ児管の質を高める人材育成、そしてOJTの重要性が強調された。</li> <li>実践研修では個別支援計画作成、会議運営、指導、地域連携を柱として教育してくださいとのことだった。</li> <li>意見交換で得た情報として、やはりOJTをどうしていくのかという話になり、現在、厚生労働科学研究費補助金各研究事業（厚労科研）で研究をしており、まとまった資料が2、3年後にできる予定と聞いた。</li> <li>自分がサビ児管になった後、SVをやる側になるので、実際に体験しておいて、助言、指導につながるように、実践研修で学んでくださいという話になった。報告書に下線で示した中央法規から出ている本にSVのことが書かれているとのこと。</li> <li>全国でいろんなやり方を取っている中、東京都では横断的に課題を整理していることはすごくいいことなのだと感じた。サビ児管の役割は変わらないが、基礎、実践、更新と、経験値によってやることの変化するという辺りに重きを置いて、研修をつくっていくというところが必要と思った。</li> </ul>
皆川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>国研修で繰り返し伝達されたことは、本人の意見・意向を聞く、サビ児管は本人のために存在する、連携の重要性、の三点だった。</li> <li>意見交換の中では、今回、東京都から委託を受けて研修を受けている我々だけではなくて、サビ児管研修を全国展開していて、かつ東京都からも指定機関として受けている職員の方と交流を持つことができた。非常にいい交流ができたと思う。全国に在住しているので、毎月意見交換会を実施し、内容は、国研修の内容をほぼ踏襲する形。私たちは東京都に住んでい</li> </ul>

	<p>る強みで、地域性について研修をやっていくが、その方たちは、自分たちはこうだけど、東京都はどうかみたいな形で、違うことを強調することで、東京都のサビ児管としての特色を浮かび上がらせるようにしているという話があった。非常に違うアプローチだが、東京都内で、サビ児管として私たちと一緒にやっている仲間の一定数が、その研修を受けているということを、俯瞰して見ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サビ児管同士のつながりや交流については、意識していて盛り込んでいるところと、意識していても盛り込み切れないところといった各県からの情報が得られた。</li> <li>・最後に、都の研修と関連づけて考えたことについて。</li> <li>・一つは、私自身が研修間のつながりと、各研修の特徴を整理することができ、まず本人主体のサービス提供というのが通底にあり、基礎研修ではプロセス、実践研修では質の向上、そして更新研修では自己研修、それをたたき込まれた。</li> <li>・研修目的について触れる際には、この用語を使用できるといいと思った。</li> <li>・もう一つはS V。更新研修はS Vが科目として盛り込まれていて、ここ何年か、委員の中で四苦八苦しなから作り上げているが、サビ児管としてのS Vの立ち位置がよく分かった。</li> <li>・職場の心理的安全性の確保につながり、職員のモチベーションを高め、成長につながり、ひいては離職率の低下につながり、サービスの質の担保になるという、流れがよく見えた。</li> <li>・S Vは利用者本人への質の高いサービスの提供がぶれずに、研修の中で整理できたと思う。ともすると、特に職員のS Vは、その職員の個別性や職員同士の関係性に振られやすく、そこをどうしようかとなりがち。そうではなく「結果的にそれが利用者本人の質の高いサービス提供につながりますか」というところをぶれずにいけるといいということがよく分かった。</li> <li>・最後の「分かりやすく伝えるにはどうしたらいいか」というところを、更新研修の委員として何ができるか、改めて持ち帰らせていただいた。</li> <li>・まず、演習ノートや進行スライドを分かりやすく整えていくかということ。重要な資料やキーワードを複数回、何度も何度も盛り込んでいくということ。そして、東京都が作っている「障害児者の豊かな生活の実現に向けて取り組む現場のリーダーの姿」の図を、もっと前面に出していくことを考えた。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体職員コースでも「誰のために、何のために」が繰り返し強調された。</li> <li>・特に、研修立案におけるファシリテーターの役割の重要性がどの研修のプログラムでも繰り返し述べられていた。</li> <li>・それを踏まえ、自治体職員コースでは、人材養成機能とその役割の再確認としてワーキングで幾つかセッションを行った。</li> <li>・ファシリテーターの養成が多くの自治体で課題となっているということを実感したが、推薦が主で、なかなか研修という形にはなっていないというのが実情だった。</li> <li>・講師からは、研修運営の質の担保に当たっては、自治体の仕様書を毎年見直していく。直営であろうが、指定であろうが、複数の関係者と地域の団</li> </ul>

	<p>体や自立支援協議会も踏まえた協議の場を設けて、内容を見直していくというのが、質の担保につながるということが述べられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都としては、この検討会という場で内容の検討をしていくということと、直営で推薦制の指導者養成研修を維持していく方向がいいと改めて思うとともに、委託研修においても、総合評価方式という提案型の入札方法を取り入れて仕様書も毎年見直しはしているので、今後も継続していきたいと思った。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。ここまでで、他の委員から質問や確認事項があれば挙手をお願いしたい。</li> </ul>
各委員	(挙手なし)
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて専門コース別研修の報告に移る。まず意思決定支援コースから横山委員、お願いする。</li> </ul>
横山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国研修では、意思決定支援コースを実施する自治体が年々増えていることが報告された。令和5年度22、6年度29、7年度は37自治体を実施予定とのこと。どの事業でも意思決定支援を適切に実施できるよう、自治体で取り組む必要性が強調された。</li> <li>・支援者はサポーターであり、基本理念と原則を理解することが重要と講師が繰り返し述べていた。</li> <li>・意見交換では相談支援専門員とのディスカッションだったので、とても学びとなった。内容については資料を参照していただきたい。</li> <li>・伝達されたことと研修とを関連付けてということでは、東京都でも意思決定支援コースが実施できるとよいと感じた。</li> <li>・基礎研修では意思決定支援の扱いが少ないため、個別支援計画作成の上で本人主体は必須であるし、サビ管・児発管には、意思決定支援責任者としての役割があることを理解するためにも、基礎の段階から意思決定支援について意識ができるとよいと感じた。</li> </ul>
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児支援コースは今回2回目の参加となった。</li> <li>・今年度、都の研修も更新しようということで、意識して受けさせていただいた。</li> <li>・やはりICFの整理というのがどこでも出てくる。相談支援でも出てきていたので共通してもいいのかと思った。</li> <li>・「児童期における相談支援の目指す方向性」の5番目のポチの二つ目。「総合的な支援方針」について、基礎研修でもよく話題に出ると思うが、国研修の説明では、相談支援が書いたものを個別支援計画に移すのではなく、サービス担当者会議で話し合った総合的な支援方針を、どちらの計画にも載せるという意味とおっしゃられていた。この辺りは、基礎研修でもフィードバックができるかと思った。</li> <li>・相談支援の計画と個別支援計画書は互いに交付してくださいということで、相談支援も絡んだポイントも話題として出た。</li> <li>・交付については、口酸っぱく何度も言われていた。基礎研修でも受講者さんから結構どうやって交付したらいいですかとか、半年に1回とかまとめて送ればいいですかという方もいらっしゃったりして、それだと連動の意味がないなと思ったりしたが、国研修の新しい知見も各研修でフィードバックしていくことも必要かと思った。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画作成のところについて、児童分野では5領域というところもあるが、成人の方だと本人支援の個別支援計画を立てるという形になると思うが、児童分野だと、家族支援と地域支援が入ってきて、目安としては3対1対1対1ぐらいで目標を立ててくださいとおっしゃられていた。</li> <li>・また、入所の施設の説明についての課題やきょうだい支援についても、詳しくできなくても、説明してほしいといった話もあった。</li> <li>・グループワークで地方の方とお話をさせていただいたが、地方はもともと相談支援が入った状態でスタートしているらしく、都はセルフプランの課題があって、どうされていますかと聞いたら、もともと相談支援と連携しているから、別に研修も変な感じがしないというところが多かった。研修の内容というのは、地域ごとの課題に合わせて変更する必要があると思った。</li> <li>・法定研修の方で専門コース別研修の参加を促していいといった話と、受講者さんの意欲に差があり受講する事業所が固まってしまうといった話もあった。そこで、受講すると何らかの手当がつくなり、国としての何かプラスがあるといいといった話もあったが、それよりは、学びたいと思う人がきちんと来て、そこで学べる研修をしてほしいとのことだった。</li> <li>・また、児童分野は楽しい、研修を受けて元気になるような仕掛けがほしいとか、相談支援と合同での研修になるが、なれ合うのではなくお互いを尊重しつつ、お互いがお互いをきちんと見ることで、緊張関係を持って質が向上されるような仕組みになるという話があった。</li> <li>・最後になるが、今回の都研修は動画配信になるので、双方向の共有ができない。セルフプランが多いという課題もあり、相談支援の方と児発管の方が顔を合わせて、オンラインでも演習ができる仕組みになるといいと思った。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援コースに参加した。</li> <li>・国研修で伝達されたこととして、まず施策の動向として、一般就労への移行者が平成15年から20倍に増えていること、A型事業所は増加傾向にあるが運営を含めて難しくB型に移るところもあるという話があった。</li> <li>・全体の平均賃金は最低賃金の上昇もあって増額傾向にある一方で、障害者の介護者数の割合が増えているということも伝えられた。</li> <li>・一般就労への移行が進んでいないことについては事業所による囲い込みが背景にあるのではないかと国は大きなテーマと考え、就労選択支援が検討されたのだと理解した。</li> <li>・(2)として、就労選択支援はアセスメントが機能を補完するために創設されたという説明があった。</li> <li>・(3)の二つ目については、選択支援は本人と共同による就労アセスメントがポイントで、支援者だけではなく本人と一緒に分析するエンパワメントの姿勢が重要であるという説明があった。</li> <li>・各県の取り組みとして、同じグループにサビ管、相談支援専門員、就労支援員が入る工夫や、あがった事例を協議会に提出しているという説明もあった。</li> <li>・「就労先にある暮らしを見る」視点で、現在取り組んでいることは未来につながるという観点が各研修に入っており、改めて必要なことだと感じた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「就労支援は地域づくり」であり、利用者の課題は地域課題であるという点 が実践や更新でも触れられているが、協議会活用のイメージがあると、よ り身近に考えられるのではないかと感じた。</li> <li>・就労選択支援では本人と共同してアセスメントを作成するという点につい て、モニタリングの際に「就労選択支援はこういう考えで行っている」と いう紹介をしても良いのではないかとも思った。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。皆様からご質問や確認事項があれば挙手をお願 いする。</li> </ul>
各委員	(挙手なし)

### 3 検討事項

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討事項1「横断的課題の検討」に進む。</li> <li>・各グループでシート作成等に協力いただき感謝する。</li> <li>・第2回検討会と同様、横断的課題の意見交換と、通常の研修ごとの検討チ ームでの話し合いを行う。</li> <li>・横断的課題は11時頃まで、研修検討チームは11時35分頃までを目安 に進めたい。</li> <li>・まず、協議会と分野別の2つのグループに分かれて、横断的課題シートに 記載された引っ掛かる点ごとに解決策を議論いただく。その際「講義・演 習・ワーク・説明の補強・その他」のいずれの形で落とし込むのが適切か についても検討していただきたい。</li> <li>・意見交換の方法について不明点があればご質問願いたい。</li> </ul>
各委員	(なし)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、ここからグループでの話し合いに移る。発表者を決めていただき10 時50分から全体共有を行うので、時間管理をお願いしたい。</li> </ul>

#### (グループ討論)

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・討議へのご協力、時間厳守に感謝する。まず協議会グループから報告をお 願いする。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会グループでは、基礎・実践・更新の各段階において引っ掛かる点を 報告し合い、どのように連携できるかという観点から討議した。</li> <li>・基礎では、自立支援協議会の紹介や知るという段階であり、協議会につい て、内容を調べて発表する案が出た。</li> <li>・更新では研修を受講する5年間の間に協議会を傍聴したり、オブザーバー として参加するなど、実際に行動することが重要ではないかという意見が あった。</li> <li>・実践と更新の間は5年あるが、研修の内容はかなり共通している。協議会 を調べて終わりとか、何をやっているかよく分かりませんといった状態で 更新になってしまうので、一步を踏み出すというところを連動できたらよ い。</li> <li>・また、自立支援協議会は遠いようで実は近い存在という点を、基礎や実践 段階でも伝える工夫が必要であり、個別支援計画のプロセスは理解されて いても、自立支援協議会が自分の仕事や利用者支援にどう反映されるのか という全体像を示すことが重要であるという意見が出た。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>各研修で知る・調べる・参加するといった形にできたらよいのではないか。</li> </ul>
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる分野の受講者の対応について、まず「成人VS児童」のような対立構造にしないことが重要であるという意見から始まった。</li> <li>基礎研修では、繰り返し説明しても分野の異なる受講者の対応について、課題となるところがまだあるが、実践研修では浸透しつつあるという印象が共有された。</li> <li>更新研修では人材育成がテーマで大きな課題としては感じないということで、基礎研のことをメインに話し合った。</li> <li>案としては、実践研修で使っているライフステージの図を基礎研修にも活用し、「今はこの段階を学んでいる」と示すことで理解を促すこと、そして「違うのではなく共通している点が多い」ことを強調することが挙げられた。</li> <li>また、個別支援計画を書く前に、覚えておいてほしいことを基礎研修では取り組んでいることを強調したり、プロセスを学ぶ研修であることを強調したりして説明することなどが意見として出た。</li> <li>児童の分野では5領域が出てくるが、成人でも結局同じことをやっていることを説明できるとよいという意見があった。</li> <li>解決策としては、基礎研修ではコラムで共通しているところを説明したり、「リーダーの姿」をもう少し打ち出せるとよいという話があり、研修のつながりやそれぞれの位置づけ、意味といったことをもう少し強調したりしてもよい。</li> <li>実践研では、他分野について考える演習があるので、そこにつなげていけるとよい。</li> <li>更新研では、分野特有のOJTと、分野に関わらず共通するOJTを意識した助言・指導ができるサビ管・児発管を育てる視点で考えることもある。</li> <li>こういった取り組みによって、各研修の中で分野別について、共通点と違いを考えられるようになるのではないかという話があった。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>ありがとうございました。補足・質問はあるか。</li> </ul>
丹澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材育成のところについて、基礎研修の前に更新研修を受講したレベルのスタッフから、簡単な予習としてOJTを受けるという案が挙がった。</li> <li>実践研修で「OJTを受けたことがない」という受講生もいて、OJTを受けられる上司がいない、教えてくれる人がいなかったということもあった。</li> <li>実践研修の申込時に、OJTを受けたという証明書というか、レポートというか、書類を出して、実践研修を申し込む。OJTを受けられない人の救済策として、基幹相談支援センターにOJTの役割を担ってもらって、書類を提出するという意見も出ていたので、補足させていただく。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>そのほか補足や質問はいかがか。</li> </ul>
各委員	(なし)
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>続いて次の検討事項、各研修チームの検討に移る。</li> <li>ここからは通常の研修検討チームに分かれ、それぞれの研修課題を話し合う時間とする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から説明をお願いしたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの研修で進捗状況が異なるため、進捗に合わせて検討をお願いしたい。言葉の統一についても、何かあれば出していただきたい。</li> <li>・11時25分から発表となっているため、それまで話し合いを進めていただければと思う。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは研修チームに分かれていただきたい。</li> </ul>

(グループ討論)

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修チームごとの検討報告に移る。基礎からお願いする。</li> </ul>
岡田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎研修は明日から第2回が始まり、まだ振り返り会もできていないが、次年度のことも考えながら議論を進めた。明日からのことと来年度のことが入り混じりつつの検討であった。</li> <li>・今年は100文字要約をなくしたこと、支援会議のロールプレイが2回組み込まれていること、相談支援専門員との連動のところが受講者にいま一つ伝わり切れていない点などを課題として出してもらった。</li> <li>・さらに、国研修の資料を確認し、もう一度国研修で言っているキーワードを抽出して、繰り返し伝えていきたいという話になった。そこを改めて考えながら改造しようとするところは考えている</li> <li>・年内から動き出さないと間に合わないという話になった。</li> </ul>
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践研修はこれから募集と動画と演習と始まるところで、最終の演習ノートの作成をしている。</li> <li>・今年度大きくプログラムの流れを変えさせていただいた。昨年の振り返りでも行き来してしまうというご意見をいただいていたので、最初にオリエンテーションをして、「分野間の共通点を考える」から、事例に入る感じにして、モニタリングをし、事例検討会をその後に入れて、個別支援会議、個別支援計画の修正、最後に自立支援協議会という形のまとめに持っていくという流れに変更した。</li> <li>・実践研修にご協力いただいた際には、感想などもいただきたいと思っている。</li> <li>・その他、細かな修正をさせていただいた。</li> </ul>
会田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更新研修は今年度、すべて終了し、昨日の振り返り会の意見も踏まえて検討を行った。</li> <li>・更新研修でも自立支援協議会について触れるところが演習3にある。先ほどのお話でもあったが、事前課題として傍聴などを入れて、ハードルは高くなってしまうが、協議会をより身近に感じられるように仕掛けていけてもいいのかという話があった。</li> <li>・スーパービジョンに関するアンケート意見が多かったため、演習4は個人のスーパービジョンだが、ステップを一つずつ区切って、それぞれに説明をしていきながら、ワークに取り組んでいける方がやりやすいといったお話もあった。次年度は参考にしていきたい。</li> <li>・演習5は事例検討によるグループスーパービジョンで、今年度一番大きく変わったところ。教室全体で実施したことで新たな気づきが得られた。教室進行とサビ管役の両方は忙しすぎたということもあったので、次年度はそこを分けて、ファシリテーターの方に全体のサビ管役をやっていただけ</li> </ul>

	<p>るとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、後半のアイデア出しが、どうしても支援方針や事例に焦点が行ってしまう傾向もあったので、事例ではなく事例提供者に焦点ということをお願い続けていきたい。</li> <li>・最後のまとめの「東京の福祉をつくっていきましょう」が動画のみになってしまっているの、集合の最後にも言って、動画でも言えるとよいという意見があった。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。補足や質疑等はいかがか。</li> </ul>
渡辺委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更新研修の話を聞いて、あつと思ったが、基礎研修のときに実践研修、OJTの話が当然ある。実践研修にも更新研修へ向けてみたいなものもあったほうがいいのかと。</li> <li>・今、実践研修をつくっているところで、間に合うか微妙だが、実践研修修了者に向けて、OJTではないが、5年後の更新研修に向けて、例えば自立支援協議会の傍聴ないしオブザーバーをやってきてほしいとか、何もしないのではなく、実践研修が終わった人は更新研修を受けるまでの間、こういうことをやってほしいみたいなものがあつたら、実践研修の終わりに入れるといいかと思ったので、その辺を踏まえて検討したい。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見をありがとうございます。その他、いかがか。</li> </ul>
各委員	(なし)
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の議題は以上である。資料公開についてはよろしいか。</li> </ul>
各委員	(了承)
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は最終回であり、今年度の総括を行う。事務局より進め方の説明をお願いします。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回前に今年度の到達点と引継事項を事務局案として整理し、事前に委員へ送付する。詳細は後日連絡する。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の検討事項が終了したため、進行を事務局へ戻す。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議事録案は後日メールで送付する。要旨は本日の資料とあわせセンターホームページに掲載する。次回は3月13日(金)10時から正午まで。会場は本日同様である。以上をもって閉会する。</li> </ul>